



# もしり

Moshiri

レストランがリニューアルしました!!

JICA北海道(帯広)

帯広市西20条南6丁目1-2  
TEL. 0155-35-1210(代表)



## 農業王国・十勝での学びが世界各国の発展に ～「食の安全確保」に向けた帯広畜産大学との連携～



JICA北海道(帯広)では、農業・畜産分野に関する研修員受入事業や草の根技術協力等を多数実施しています。その過程で築かれた自治体や研究機関、農家や酪農家の皆さまとの繋がり、道東地域における国際協力の重要な基盤となっています。

特に帯広畜産大学とは、1996年のセンター開設以降、緊密な連携と支援のもと、開発途上国への国際協力を進めてきました。これまでに帯広畜産大学が世界各国から受け入れたJICA研修員はなんと750人以上！そして、帯広畜産大学が輩出したJICA海外協力隊員は300人以上にのぼります。

2月4日には、「地域と世界をつなぐ国際協力～JICAにおける畜産分野協力の現状と今後のニーズについて～」と題したワークショップを、帯広畜産大学原虫病研究センターとともに開催しました。かつて帯広畜産大学でJICA研修員として学び、現在は世界各国で活躍している研究者4名が、十勝での学びを振り返るとともに、各国の家畜衛生・疾病対策に十勝での学びが役立っていることを紹介しました。

最も古い研修に参加したモスケダさん(メキシコ)の来日はなんと25年前！そして、これから草の根技術協力が始まるウガンダからは、現地での活動をリードするパトリックさんが来日し、久々に目にする雪に大喜び！かつて十勝で過ごした日々を思いをはせ、これからはよりいっそうの親日家として開発途上国と日本とを繋いでいってほしいですね。



### ウガンダで新たに 草の根技術協力が 始まります!



かつて帯広畜産大学でJICA研修員として学んだパトリックさんの研究テーマは、北海道にも生息が確認されている「マダニ」。ウガンダの畜産農家の多くは、このマダニが媒介する感染症による被害に苦しんでいます。そこで課題解決に向けて立ち上がったのが、パトリックさんが学んだ帯広畜産大学です。

マダニの吸血による直接的被害、そしてマダニが媒介する感染症による間接的被害を減少させることで、畜産農家の生産性



向上を目指す「マダニ媒介感染症制御による畜産農家支援プログラム」を3月から開始します。

ウガンダでは、

かつて帯広畜産大学で原虫病の予防や治療について学んだJICA帰国研修員が、パトリックさんとともにチームの一員となって活動する予定です。十勝から遠く離れたウガンダでの彼らの活躍に乞うご期待!



JICA北海道(帯広) Facebookページへの「いいね!」が、ついに1,000件に達しました!国内外を問わず多くの方からの「いいね!」をいただき、本当にありがとうございます!その後も「いいね!」は続々と増えていて、現在は2,000件を超えています!北海道が誇る多様な技術と発展の経験を、途上国の「人づくり」「国づくり」に役立てながら、途上国も北海道も元気にする拠点として、地域の皆さんに貢献できるよう頑張っています。これからも、北の大地から国際協力の「今」をお伝えしていきますので、応援よろしくお願いいたします!



facebook ページ

「いいね!」  
1,000件  
達成!!

